

多賀城発で多賀城着。  
ヒト・コト・モノを届けます。

アンケート

誌面づくりの参考にしたいと思っておりますので、  
ぜひご協力をお願いします！



- ・自分たちの団体取材してほしい
- ・こんな話題を取り上げてほしい
- ・ユニークな活動や地域のために頑張っている団体・人を知っている



↑ 海上保安庁作成の日本周辺の3D海底地形図で学ぶ



↑ 防災人ミーティングは、課題や想いを共有する場



↑ 防災マップで自分の住む地区の状況を確認しました

# 防災スキルで活躍！

## 市民発の防災会議“<sup>ぼうさいびと</sup>防災人ミーティング”



↑ すごくで防災知識を学ぶ「ぼうさい駅伝」ゲーム



↑ 周辺を探索しながら、危険場所を探す「防災さんぽ」



↑ いろいろな防災バッグの中身を比較しました

東日本大震災の際、多賀城市は震度5強の地震と、約2～4メートルの津波により大きな被害を受けました。市内の浸水面積は662ヘクタールに及び、市域の約3分の1が水につかりました。この経験から、防災の大切さを改めて考え、行動する市民が増えています。

その取り組みの一つが、市民発の防災会議「防災人ミーティング」です。防災士の資格を持っていても地域で活躍する場がない人や、地区の防災担当として悩みを抱える人たちの声をきっかけに、2022年から始まりました。立場や年代の異なる人が集まり、地域で感じている不安や課題を共有しています。ミーティングでは、平時のつながりが災害時の助け合いにつながることや、地域の地形や特性を知ることの重要性、子どもや転入者への防災教育の必要性など、さまざまな意見が出されています。LINEを使った安否確認など、新しい取り組みについての情報交換も行われています。

2025年には、中央公民館が主催する小学生向けの「防災キャンプ」に防災人のメンバーが講師として参加し、それぞれのスキルを活かして子どもたちに防災について伝えました。このような活動が人や地域の関係性を生み、安心して暮らせるまちづくりにつながっていきます。

城南自治会長で防災士の高橋伸さんは、「このミーティングに参加して、町内会が防災訓練などで困っている話をよく聞きます。情報交換だけでなく、防災の知識やスキルを持つ人が、困っている地域で活躍できれば、市全体の防災意識が高まるのでは」と今後の展望を話してくれました。

### ミーティングの意見(2022～2025年)

- ・平時のつながりがないと災害時に動けないことを実感
- ・地形・地層で災害の危険度がわかる。住んでいる地域のリスクを学び、考えることが大切
- ・地域力を高め、みんな一緒に避難行動がとれるようにしたい
- ・災害は起こってからではなく、防災の啓発活動が重要
- ・マンション防災についての意識調査を行った
- ・地区によって課題はさまざま。地域にあった訓練が必要
- ・LINEで住民の安否や避難場所を把握する取り組みを行っている
- ・子どもや転勤族への防災教育が必要。転入時や入学時に伝えること

防災人ミーティングの情報は、当センターのブログやホームページで随時発信中です。





## 自分発、超<sup>スバ</sup>まちづくり

自分の好きなこと、得意なことを生かしながら、  
まちを元気にするために活動している団体があります。



### 得意を生かした交流の場づくり

リフ超学校が事務局を運営している「利府町市民活動研究会」。町内の市民活動団体や地域活動団体が集まり、情報共有や意見交換をしながら市民協働のまちづくりを目指しています。

その中から生まれたのが「利府町寺子屋」です。子どもたちの居場所づくりと学習意欲の向上、集会所の有効活用を目標に掲げ、2023年2月にスタートしました。集まった小・中学生の子どもたちは、宿題や自主学習といった勉強はもちろん、運動や工作などのレクリエーションを楽しんでいます。子どもたちを見守るのは、リフ超学校のメンバーのほかボランティアとして参加している学生。勉強をサポートしたり、一緒に遊んだりしながら、多世代交流の場を作り出しています。

プロジェクトリーダーの名取俊輔さんは、教育大学に通っていたという経歴を生かし、大好きな子どもに関わりたいという想いから利府町寺子屋を発案。「家族以外の大人との会話や普段はできない経験から、いろいろなことを学んでほしい。まちの魅力を知って愛着と誇りを持ち、いつか次の世代の子どもたちを支える立場になってくれれば」と話します。



↑中学生の勉強を見守る名取さん。休憩中のおしゃべりも交流の時間に。

### やりたいことに挑戦できるまちへ

音楽家でもあるリフ超学校代表の佐々木将太さんが、まずは自分が楽しむことを実現させるため、そして、地域住民が主体的に関わることができる場をつくるために企画したのが市民参加型イベント「RIFU ROCK FEST.」。2017年度にスタートし、規模や形態を変えながら継続。音楽やものづくりを通して出演者、出展団体、スタッフ、ボランティアが自己表現を実現しています。そこには、佐々木さんの「自己実現でまちづくりを成立させたい」という想いが込められています。参加者からは「その気になればこういうことだってできる」という声があがっているほか、参加者同士のつながりから次の活動が生まれた事例もあります。

「まずは個人を元気にしたい。個人の余剰エネルギーを家族、ご近所、所属団体といった組織に分け与えることができれば、組織にも余剰エネルギーが生まれる。それが社会に還元されれば、社会全体に余裕が生まれて、元気なまちになると思います」と話す佐々木さん。市民ひとりひとりが“プレイヤー”として動くことができる仕組みをつくりながら、リフ超学校は民間の中間支援組織としてまちを盛り上げていきます。



↑タガレンジャーも応援!初めて人前で演奏する、出展するという人も多くいるライブイベント。

### ・NPO法人リフ超学校・

「利府・宮城のまちを内面から美しく!」を目標に掲げる宮城県利府町の民間中間支援組織。令和7年度現在、県の「NPOネットワーク構築事業」を担っており、利府町外の多賀城、塩釜などからの市民活動相談も寄せられている。

#### イベント情報

RIFU ROCK FEST.2025

開催日:2026年3月28日(土) 会場:利府町総合体育館(サブアリーナ)

詳細はNPO法人リフ超学校のホームページまで



NPO法人  
リフ超学校  
ホームページ



「tag(たっぐ)」には、多賀城(tagajo)」の頭文字3文字、みんながタグを組んで地域をつくる、多賀城に新しいタグ(価値)をつける、という意味が込められています。



ホームページ



ブログ